

1/22
本報

福井県職員109人 金品受領

関電問題 元助役から現金や小判

●調査対象377人中、調査に回答した幹部313人のうち、180人が森山栄治氏と接点があった
 ●109人が金品をもらったり食事代を出してもらったりした。儀礼の範囲を超えていると判断したのは21人
 ●職員が森山氏から請託を受けたり同氏に便宜を図ったりした事案は確認されなかった
 ●個人として対応すべき問題であると職員が考え、組織的な対応がなされていないことも今回の問題の要因

関西電力の役員らが福井県高浜町の元助役・森山栄治氏（今年3月に死去）から多額の金品を受領した問題で、県の顧問弁護士でつくる調査委員会は21日、県職員計109人（退職者を含む）が森山氏から金品などを受領していたとする調査結果を発表した。このうち現金や商品券、純金小判など「儀礼の範囲を超えている」と判断された金品の受領者は計21人で総額1億2千万円相当にのぼった。

▼33面 白屋堂々

森山氏が顧問を務めていた土木建築会社「吉田開発」（高浜町）は関電の原発関連工事のほか県の工事でも多数受注している。調査報告書によると、健康福祉部や教育庁、安全環境部、土木部、嶺南振興局といった出先機関などに勤務していた

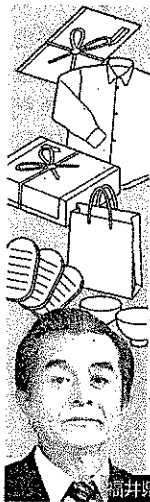
県調査委報告

森山氏が顧問を務めていた土木建築会社「吉田開発」（高浜町）は関電の原発関連工事のほか県の工事でも多数受注している。調査報告書によると、健康福祉部や教育庁、安全環境部、土木部、嶺南振興局といった出先機関などに勤務していた

受領最高額は20万円相当。就任祝いや餞別として10万円以上（商品券や純金小判を含む）を受け取った職員が5人、5万円以下が10人いた。また、受領したお菓子の下に2万円分の商品券が入っていたケースもあった。

福井県職員109人の受領の内訳

就任祝い・餞別	18人
10万円（商品券や純金小判含む）	5人、5万円以下=10人、金額不明=3人
中元・歳暮	69人
5千円超-1万円=11人、5千円以下=18人、金額不明=40人	
あいさつ土産	28人
お菓子の手土産の下に商品券2万円=1人	
食事	8人
昼（そばなど）=7人、夜（懇親会）=1人	
その他	15人
香典5万円、ワイシャツの仕立券、叙勲祝い返しなど	



福井県高浜町の元助役森山氏（故人）

県は受領者のうち、14年度に森山氏から10万円相当の純金小判と10万円分の商品券を受領した健康福祉部の課長級（当時）職員を戒告の懲戒処分とした。また退職者28人についても、処分相当の事案との判断を示

した。一方、県側から森山氏に便宜を図った事案は確認されなかったという。

記者会見した調査委員長藤井健夫弁護士は、森山氏は県の客員人権研究員を務めるなど地域の人権問題を熟知する一方、「感情の起伏が激しく、対応に気を遣う人物として認識されていた」と背景を説明。返却

しようとしたが、厳しい言葉を送られ返却できなかった職員がいたことを明らかにした。「個人として対応すべき問題であると考え、組織的な対応がなされなかったことが今回の問題につながっていたと考えられる」との考えを示した。

関電役員らの金品受領問題を受け、県の元幹部も贈

答品を受け取っていた事実が報道で明らかになった。このため、県は10月15日、弁護士3人による調査委員会を発足。森山氏から金品や贈答品などを受領していないか調べるとともに、森山氏が役員などを務めた関連会社について、県発注工事・業務の適正性についても精査していた。

金品受領 県にも浸透

県庁土木部内で白昼堂々

関西電力役員らによる金品受領問題で、福井県職員ら109人が同県高浜町元助役の森山栄治氏（故人）から現金や純金小判などを受け取っていたことが明らかになった。一方、歴代県幹部が森山氏を「特別扱い」していた実態も朝日新聞の取材で新たに判明した。原簿マネーをめぐる異様な構図は、これまで広げられてきた。

福井109人が関係

「前後10年間くらい、10万円、5万円という金品をもらっている」「儀礼の範囲を超えている」

21日、調査委員会の委員長を務めた藤井健夫弁護士が記者会見し、県庁内部で連絡と続いてきた森山氏と一部幹部らとの不適切な関係を明らかにした。

中には受け取ったお菓子などを担当する健康福祉部

の下の商品券2万円が入っていたという例もあった。その後、返礼品を渡したものの、こうした「時代劇」のような金品のやりとりも改めて明らかになった。

「森山氏が高浜町役場で課長になったころから始まっていた」と説明した。

調査委員会は、人権問題などを担当する健康福祉部

や教育庁、原子力対策を所管する安全環境部、工事発注にかかわる土木部、高浜町を所管する嶺南振興局といたった出先機関などに勤務していた県職員377人（退職者を含む）を対象に面接や書面調査した。

森山氏は県の客員人権研究員を務めており、特に健康福祉部では、何人もの幹部が連続して金品や贈答品を受け取ったり森山氏に渡したりしていたとされる。

さらに同部の一部の職員



記者会見で、調査報告書を読み上げる調査委員長の藤井健夫弁護士（福井県庁）

年度	部署	受け取った金品	返却などの対応
1993	嶺南地区出先機関	現金2万円	「返礼の記憶はない」
98	土木部	商品券5万円	そのまま受け取った
98	教育庁	現金計6万円	8割程度の品を返した
2000	嶺南振興局	商品券約10万円	相当分の食品などを返した
01	教育庁	現金10万円	9万円弱の香炉を返した
02	県民生活部	現金2万円	そのまま受け取った
02	教育庁	現金5万円	佃煮を返した
03	県民生活部	現金3万円	同額を返した
04	健康福祉部	商品券10万円	7万～8万円の花器を返した
05	安全環境部	商品券10万円 現金10万円	8万円相当のつばを返した
11	健康福祉部	ワイシャツ仕立券	使用した
13	教育庁	現金5万円	そのまま受け取った
14	健康福祉部	商品券10万円 純金小判1枚 (約10万円相当)	商品券相当の品物を返した

福井県職員による主な金品の受領状況

は、森山氏の支払いで数千円程度の夕食や1千円程度以下の昼食をともにする機会があった。10万円相当の純金小判を受け取ったのも健康福祉部の所属だった。

金品の受け渡し場所は多くが高浜町内や京都市内の森山氏の住居だったとされるが、公共事業を所管する土木部内で白昼堂々と金品が渡された事例もあった。

森山氏が県庁にあいさつに訪れた際、菓子とともに5万円分の商品券を渡されていた。

就任時幹部ら「森山詣で」

福井県の幹部らの一部は、就任のあいさつをするために福井県内から京都市内の森山氏のもとに出向き、金品や贈答品を受領したり手土産を渡したりしていた。

人権研修などを担う部署「人権室」がある健康福祉部の元部長や、原簿が林立する嶺南部の出先機関である嶺南振興局の元局長らが出向した状況について、朝日新聞の取材に応じた。

「（森山氏は）怖い、きつい人だ。会いに行ったらいい」。2010年代に嶺南振興局長を務めた男性は、前任者からそう言われ、就任時に京都市内のホ

藤井委員長は、他の金品受領の事例も含めて「森山氏から請託を受けた事案や、便宜を図った事案は確認されなかった」とする。

しかし、実際に便宜がなかったかどうかの実態調査はしておらず「本人の申告に基づいた」としている。調査に強制力はなく、一部には「言いたくない」と詳細な回答を拒む対象者もいたという。

高浜町を所管する県の嶺南振興局でも幹部の就任や退任時にあいさつに出向していたほか、中元や歳暮のやりとりがあった。原子力対策を所管する安全環境部では、森山氏と特段の接点は見受けられなかったと

「森山氏へ就任と退任のあいさつに出向き、中元や歳暮のやり取りもしていたという別の元健康福祉部長

は、こう語った。「中央官庁へあいさつに行くことはあるが、県外の個人のもとに行くのは異例。それくらい丁寧な扱ったほうがいい

1987～2003年に在任した栗田幸雄元知事は、元々面識がなかった森山氏が知事就任後、年1、2回ふらりと知事室に現れたことを覚えている。「何かの用事で県庁に来るときに『知事いますか』と来られる。自身はまったくの雑談で、原子力の話とか、あれしてくれなと要望とかは一切なかった。魚やうめんなどの中元や歳暮も送られてきていたという。

いる。

関電役員らの金品受領問題が発覚した後、福井県の杉本達治知事は「立地地域との信頼関係を大きく損なう行為で、言語道断だ」と強い言葉で批判していた。

だが今回、自身がトップを務める県の職員が小判や現金などを受領していたことが明らかになった。

県は職員服務規程の信用失墜行為にあたるとして、現役職員1人を懲戒処分とした。杉本知事は21日夕、報道陣の取材に応じ、「基本的に儀礼の範囲内だったが、その中に儀礼を超えた部分があった。県として、襟を正したい」と述べた。

1987～2003年に在任した栗田幸雄元知事は、元々面識がなかった森山氏が知事就任後、年1、2回ふらりと知事室に現れたことを覚えている。「何かの用事で県庁に来るときに『知事いますか』と来られる。自身はまったくの雑談で、原子力の話とか、あれしてくれなと要望とかは一切なかった。魚やうめんなどの中元や歳暮も送られてきていたという。

11/22 朝日